



ここにしかないものを

～結願の郷で地域を支えている人たち～

左から

眞部 康寛さん、多田 梨恵さん、
眞部 徳子さん、眞部 セイ子さん、
長岡 潤さん

きっかけは、2012年3月。多和小学校の閉校

思い出が詰まった学校を活用し、地域を盛り上げていきたいー
立ち上がった住民たちの思い、その活動の軌跡をお伝えします

市南部に位置し、徳島県との県境にある多和地区。四国靈場第88番札所の大窪寺があり、お遍路さんをはじめとする観光客が年間約16万人訪れます。2013年11月に、遍路道沿いにある多和小学校跡地に、地域で作った野菜や特区認定を受けたどぶろくを販売する「多和産直結願の郷」、2016年3月には、世界初の天体望遠鏡博物館がオープンし、2つの施設には年間約2万人が足を運んでいます。

地域を盛り上げたいと 強く願った当時

多和地区では、祭りや運動会などの地域行事を小学校で行うことが伝統となっていました。しかし、これまで活動の拠点を担つてきた小学校の閉校が決まり、その歴史や伝統が失われることに危機感を抱いた地元有志は、住民全員にアンケートを取りました。そして、地域をどのように盛り上げていくか互いに意見を出し合った上で、住民グループ「結願の里 多和の会」（以下、多和の会）」を結成。産直市を運営したり、どぶろくを製造・販売したりするなど、



結願の里 多和の会
2代目会長 真部 康寛さん

地域内外から 人が集まる現在

多和の会では、ホームページやブログを活用し、地域外へ魅力発信を行う一方、活動をまとめた「結

具体的に動き出したのです。
多和の会2代目会長の眞部康寛さんが当時のことを次のように話します。「全員、専門家じゃないんやけどな。それぞれ得意な分野があるんよ。絵が上手な人や野菜を育てている人、人とつながりがある人とか。みんなで協力しながらやってきたんよ」。

住民の意見を取り入れながら試

行錯誤を重ねた結果、現在では60

名が多和の会の運営に携わっています。

広報さぬき 2019.10 2